

市の家計簿

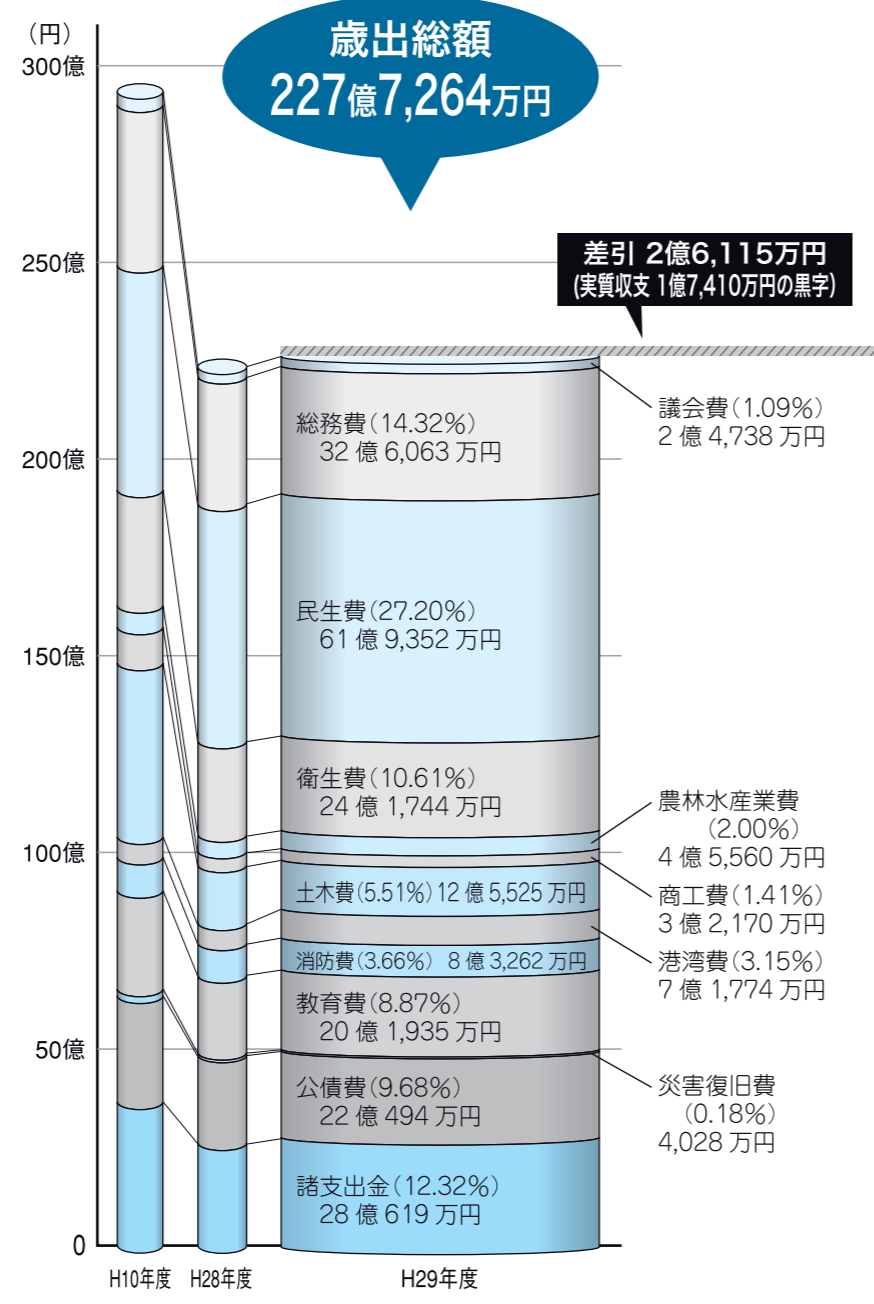
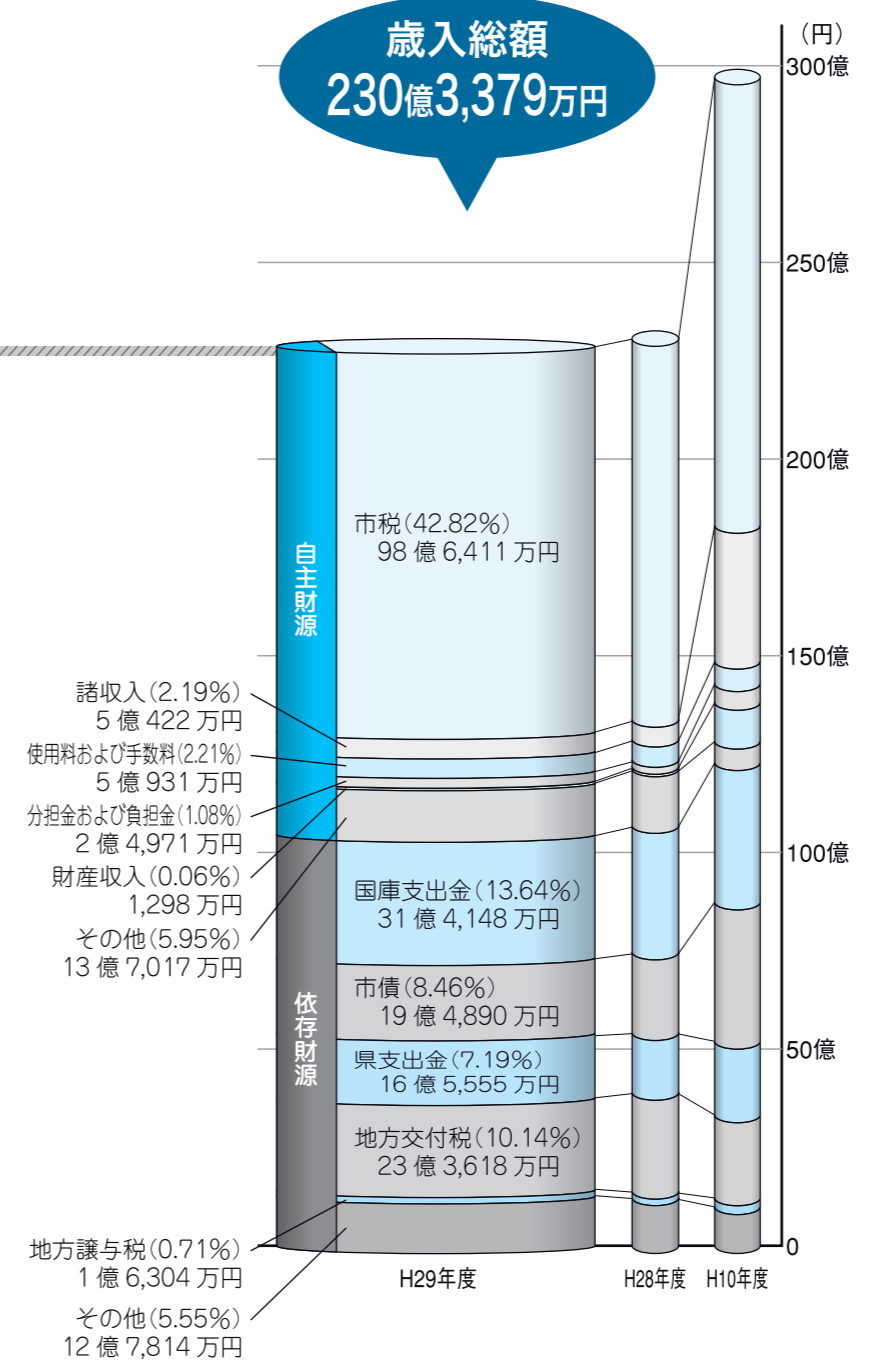
市民のみなさまからの税金等が昨年度どのように使われたか、平成29年度決算報告、平成29年度決算より算定した健全化判断比率、平成30年度上半期業務状況（企業会計）、職員の給与・定員状況を掲載いたします。

平成29年度 決算報告

一般会計

防災対策・人口増対策に重点

市税を主な財源として、学校、道路などの建設・整備をはじめ、福祉、消防、教育など市の行政運営の基本的な経費を計上した会計です。平成29年度決算については、市税が増加したものの、地方交付税と市債の落ち込みにより歳入は前年度と比べ減少となっています。一方、歳出については、港湾改良事業費や教育・保育施設等整備補助金の増加により、大幅な増加となっています。結果、平成29年度の歳入は230億3,379万円、歳出は227億7,264万円、差し引き2億6,115万円となり、この中には翌年度へ繰り越した事業の財源8,705万円が含まれていることから、実質収支は1億7,410万円の黒字となっています。



差引 2億6,115万円
(実質収支 1億7,410万円の黒字)

平成29年度中に
市民1人あたりに使われた金額
(人口 53,592人(平成30年4月1日現在)で算出)

424,926円 ↑
(413,592円)

費目ごとに見てみると…

- 総務費 60,842円 ↑ (59,981円)
- 民生費 115,568円 ↑ (111,691円)
- 衛生費 45,108円 ↑ (44,051円)
- 土木費 23,422円 ↓ (27,262円)
- 教育費 37,680円 ↑ (37,271円)
- 公債費 41,143円 ↓ (41,438円)
- その他(諸支出金、消防費、商工費など) 101,163円 ↑ (91,898円)

○内の矢印は平成28年度決算と比較した増減を表しています。
()内の数字は平成28年度決算。

用語解説

歳入
自主財源 市町村が自らの手で徴収または収納できる財源
依存財源 国や県から交付されたり割り当てられるものなど
 市税 市民税、固定資産税、軽自動車税など
 使用料および手数料 施設やサービスの提供で得るお金
 分担金および負担金 保育所や施設入居者の負担金など
 その他(自主財源) 寄附金、繰入金、繰越金
 市債 道路や学校などを整備するために借り入れたお金
 国庫支出金、県支出金、地方交付税、地方譲与税 国や県から交付されるお金
 その他(依存財源) 利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、国有提供施設等所在市町村助成交付金、交通安全対策特別交付金、地方特例交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金

歳出

議会費 議会の運営など
総務費 総務、企画、財務、国際交流など
民生費 児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉など
衛生費 検診、予防接種、環境保全、墓地整備など
農林水産業費 農業、水産業の振興
商工費 商工業、観光振興、消費者や労働者の対策など
土木費 道路や公園、住宅の整備など
港湾費 港湾や漁港施設などの建設、維持管理
消防費 消火、救急活動、防災対策など
教育費 学校、公民館、図書館等、教育施設の維持、整備など
災害復旧費 災害復旧に要する経費
公債費 施設整備などの借入金の返済
諸支出金 過年度支出、特別会計繰出金など

本市におきましては、今後とも行財政改革を積極的に推進し、限られた財源の中で「最少の経費で最大の効果」があげられるよう効率的な市政運営を進めていきます。



特別会計

特定の歳入をもって特定の事業を行う場合など、他の会計と区分して経理する必要がある場合には、法律や条例に基づいて設置しているものです。平成29年度の9の特別会計の決算状況は、次のとおりです。

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	74億6,461万円	74億568万円
与島診療所	4,489万円	4,489万円
港湾整備事業	9,621万円	461万円
王越診療所	1,685万円	1,685万円
下水道事業	18億6,047万円	18億5,894万円
坂出駅北口地下駐車場事業	1億58万円	1億58万円
介護保険	57億8,554万円	55億5,810万円
介護保険介護予防支援	5,668万円	5,668万円
後期高齢者医療	8億9,191万円	8億8,972万円

貸借対照表 (平成30年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	76億4,632万円	固定負債	37億7,894万円
流動資産	13億2,901万円	流動負債	4億9,359万円
		繰延収益	8億8,530万円
		資本金	17億2,025万円
		剰余金	20億9,725万円
合計	89億7,533万円	合計	89億7,533万円

損益計算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

費用の部		収益の部	
営業費用	11億456万円	営業収益	12億3,403万円
営業外費用	7,559万円	営業外収益	7,466万円
当年度純利益	1億3,056万円	特別利益	202万円
合計	13億1,071万円	合計	13億1,071万円

給水栓数 25,199栓 配水量 7,686,052m³

水道事業
平成29年度の事業実績は給水栓数25,199栓(前年度比0.06%増)、給水人口53,492人(0.86%減)、配水量7,686,052m³(0.84%増)となりました。また事業収支においては、特別利益が7億9,671万円減少したため、事業収益は13億1,071万円(38.51%減)であり、一方事業費用は11億8,015万円(2.84%減)で1億3,056万円の純利益を生じました。なお、主な建設改良工事として公共事業元町一丁目・文京町一丁目配水管布設替工事で6,080万円など、配水管整備事業で老朽鉄管の布設替等2億6,553万円を実施しました。また、県内水道事業の統合により、坂出市水道事業を平成30年4月1日から香川県広域水道企業団に移管することに伴い、平成30年3月31日をもって坂出市水道事業を廃止しました。

貸借対照表 (平成30年3月31日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	73億1,882万円	固定負債	64億8,467万円
流動資産	40億4,997万円	流動負債	8億1,570万円
		繰延収益	9億5,907万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	10億8,696万円
		評価差額等	255万円
合計	113億6,879万円	合計	113億6,879万円

損益計算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

費用の部		収益の部	
医業費用	51億5,451万円	医業収益	51億8,888万円
医業外費用	2億3,845万円	医業外収益	3億7,150万円
特別損失	623万円	特別利益	2,098万円
当年度純利益	1億8,217万円		
合計	55億8,136万円	合計	55億8,136万円

延べ患者数 入院 54,491人 外来 150,553人

市立病院事業
平成29年度では、体外衝撃波結石破碎装置、遠心型血液成分分離装置、超音波診断装置など必要な医療機器を購入し、医療機能及び療養環境の向上を図りました。平成29年度の業務実績は、入院患者54,491人、外来患者150,553人で、入院患者は前年度に比べて2,821人増、外来患者は4,731人増となりました。また、事業収支の状況は、医業収益が51億8,888万円(7.4%増)、医業費用が51億5,451万円(5.7%増)で、これに医業外収支などを加えると、1億8,217万円の純利益が生じました。

企業会計

民間の会社のように、その事業の収入で支出をまかなう独立採算事業で本市では水道事業(平成29年度まで)と市立病院事業があります。

Q 坂出市の財政状況は？

～平成29年度決算により算定した健全化判断比率等について～

平成19年6月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。この法律は、健全化判断比率等の財政指標を設け、その比率に応じて早期(経営)健全化基準(イエロカード)と財政再生基準(レッドカード)が定められています。平成20年度(平成19年度決算)から健全化判断比率等を公表し、平成21年度(平成20年度決算)からは、健全化判断比率等のうちいずれかが基準以上の場合は、財政健全化計画等の策定が義務付けられています。本市の健全化判断比率と資金不足比率は、下表のとおり全て基準を下回り、本市の財政状況が「健全段階」であることを示す結果となりました。今後とも、行財政改革実施計画を着実に実行し、効率的な財政運営を行ってまいります。

健全化判断比率

本市の健全化判断比率は、すべて基準を下回りました。

(単位 %)

健全化判断比率	平成29年度決算	早期健全化基準	財政再生基準	用語の説明
実質赤字比率	— (▲1.28)	12.90	20.00	一般会計等の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(財政運営の深刻度を示す)
連結実質赤字比率	— (▲38.20)	17.90	30.00	全会計の実質的な赤字額の標準的な収入に対する割合(地方公共団体全体としての運営の深刻度を示す)
実質公債費比率	11.7	25.0	35.0	一般会計等の実質的な借入金の返済額の標準的な収入に対する割合(資金繰りの危険度を示す)
将来負担比率	81.5	350.0		一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の残高の標準的な収入に対する割合(将来負担の程度を示す)

資金不足比率

本市の資金不足比率は、全特別会計において、基準を下回りました。

資金不足比率とは

各公営企業の資金不足額の事業規模に対する割合で経営状況の深刻度を示します。



(単位 %)

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準	特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業	— (▲88.6)	20.0	下水道事業	—	20.0
市立病院事業	— (▲69.3)		坂出港湾整備事業	— (▲240.3)	

※比率が算定されない場合は「—」で表示し、参考に黒字(資金剰余)の比率を「▲」で表示しています。

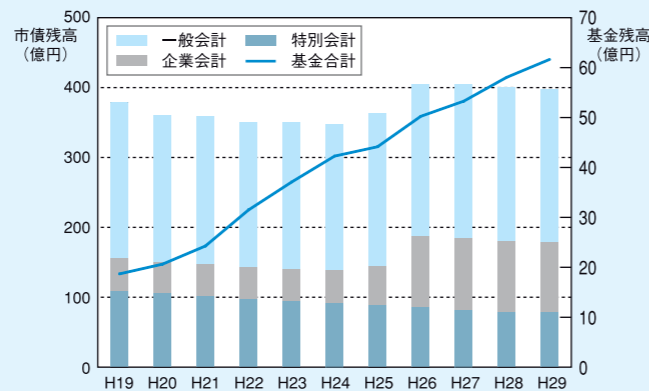
Q 坂出市の預貯金と借入金はどのくらい？

～基金と市債～

坂出市の預貯金にあたる基金残高は、平成29年度末現在、61億6,494万円となっています。

一方、借入金にあたる市債残高は、平成29年度末現在、397億3,577万円(一般会計218億4,438万円、特別会計79億3,511万円、企業会計99億5,628万円)です。

市民1人あたり 預貯金 11万5,035円
借入金 74万1,450円



平成30年度上半期業務状況(企業会計)

平成26年度より新地方公営企業会計基準を適用しています。

市立病院事業

貸借対照表 (平成30年9月30日)

資産の部		負債・資本の部	
固定資産	71億5,326万円	固定負債	64億7,362万円
流動資産	38億1,640万円	流動負債	4億9,544万円
		繰延収益	8億9,493万円
		資本金	20億1,125万円
		資本剰余金	859万円
		利益剰余金	11億444万円
		評価差額等	△1,861万円
合計	109億6,966万円	合計	109億6,966万円

損益計算書 (平成30年4月1日～平成30年9月30日)

費用の部		収益の部	
医業費用	25億1,460万円	医業収益	25億6,886万円
医業外費用	1億1,666万円	医業外収益	7,342万円
特別損失	331万円	特別利益	976万円
当年度純利益	1,747万円		
合計	26億5,204万円	合計	26億5,204万円

※一般会計および特別会計の平成30年度予算執行状況については、市ホームページ上で公表しています。